

## ホストファミリーとの思い出

私の留学生活の中で、最も印象に残っていることは、FISファミリー（ホストファミリー）と過ごした日々です。今回は、その中でも特に思い出に残っている2つをお話したいと思います。1つ目は、Thanksgiving week にホームステイをしたことです。この派遣留学プログラムの一環として、Thanksgiving Day である11月の第4木曜日に合わせ、約1週間大学が休みになり、その間、ホストファミリーのお宅に滞在するというものがあります。私は、もう1人のNUISの学生とともに近くのお宅にホームステイしました。彼らは、私たちが温かくもてなしてくれ、“Make yourself at home” 自分の家のようにくつろいでね。といつも言ってくれました。また、彼らは大変留学生に寛容な家だったため、Thanksgiving Day 本番には、私たち以外にもインド、ネパール、サウジアラビア、アメリカ、中国の留学生が一堂に集まり、一緒にランチパーティーを行いました。大きなお家でしたが、20人以上の人がごったがえしていたため、非常に賑やかなパーティーとなりました。今となっては、あんなにいろんな国籍の人が一堂に会していたあの空間は私にとって、本当に夢のようだったと思います。さらに、別の日には、私たち日本人2人で彼らに日本食を振る舞いました。日本から持参にしたさぬきうどんや、つゆ、そして白玉粉でうどんと白玉を作りました。うどんの具に関して、アメリカのスーパーでは日本と同じものが売っていませんでしたが、知恵を絞って、“なんちゃってかきたまうどん”を作りました。白玉は問題なく作れましたが、あんみつにあまり馴染みがないと思ったので、代わりにクランベリーソースやチョコレートソースも用意しました。日本食を食べた彼らの感想は、I like it! Really good! と、好評でした。中にはあまり美味しくないと感じた人もいたようですが、手作りの日本食を振る舞ったことは、日本を紹介するという意味で非常に良い機会だったと思います。



キッチンで白玉づくり♪



手作り白玉のできあがり！

もう1つは、帰国当日の夜の事です。身支度もまだ終わっていませんでしたが、空港に向け出発するのが深夜だったのでその前に、ホストファミリーが私たちをお家に招待してくれました。ホストマザーの手料理を食べ、家族みんなでゲームをした時間は、本当に他愛無い時間でしたが、私にとっては最後なんだなぁと感慨深いものでした。ホストファミリーが、「僕たちの家は、いつでもウエルカムだよ！いつでも戻ってきてね。」と言ってくれた時は本当にうれしかったです。また、寮に戻る途中で、私たちの最後のわがままとして、近くの大きな湖（Lake Mozingo）に行きました。そこは美しい星空が有名だったので、最後にどうしても行きたかったのです。人通りの少ない道を進み、ネオンライトが一切ない真っ暗な砂利道を超えた先には、満天の星空が広がっていました。あんなに綺麗で無数の星が輝く夜空を見たのは生まれて初めてでした。気温マイナス10度の中で見た最高の星空は、1つ1つがキラキラ輝いていて、本当に美しかったです。大袈裟ですが、星たちがさようならと言っているみたいだな、と思ってしまうほどでした。さらに、帰り際、車から出るときにホストマザーがハートのネックレスを私たち2人にプレゼントしてくれました。そこには、ある女性の「友」に関する句が書かれていました。私たちはどこにいても、ずっと友達よ。と伝えながら、涙を流していた彼女の顔は忘れられません。



大きなクリスマスツリーの前で撮った泣き笑顔写真

私は、彼らのおもてなしと優しさに、本当に感謝しています。そして、彼らがホストファミリーで本当に良かったです。彼らの温かさを忘れずに、またいつか会える日を楽しみに、これからも語学力の向上にむけて日々頑張ります。